

「若狭湾 海の自然学校」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
20	60	20	20 (福井5・滋賀4・京都3・大阪2・奈良2 兵庫1・愛知1・富山1・東京1)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・長期宿泊体験を通して、仲間の協調性を養うと共に、活動意欲を向上させる。
- ・自然に直接触れ合う活動を多く取り入れることにより、遊び心を刺激し、前向きに挑戦する姿を育てると共に、自然環境に対する畏敬の念を育てる。
- ・海を様々な角度から体感することを通して、広い視野を持った豊かな人間性を育てる。
- ・当施設のフィールドを広く工夫活用し、その活用法を、他の教育施設や一般利用団体にも広く普及することを目指す。

◆期日・期間

平成24年8月18日(土)～8月26日(日) <8泊9日>

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・地元福井をはじめ、関東・北陸・関西と広範囲から60名の応募があった。
- ・事業の内容・ボランティアスタッフの人数などを考慮し、6年生10名・5年生6名・4年生4名に配分し、抽選し決定した。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
8月18日(土)	仲間との出会い <始まり式、オリエンテーション、目標設定>	宿泊棟
19日(日)	自然との出会い <目標設定、テント設営>	鏡崎(テント泊)
20日(月)	海に親しむ① <スノーケリング練習>	宿泊棟
21日(火)	海に親しむ② <シーカヤック練習>	宿泊棟
22日(水)	無人浜での生活① <阿納の浜でのキャンプ①>	阿納(テント泊)
23日(木)	無人浜での生活② <阿納の浜でのキャンプ②>	阿納(テント泊)
24日(金)	無人浜での生活③ <無人浜での生活の振り返り、片付け>	宿泊棟
25日(土)	総まとめ① <ハイキング・キャンプファイアー>	宿泊棟
26日(日)	総まとめ② <振り返り、終わり式>	

「シーカヤック」講師 グランストリーム 大瀬志郎・久我弘道 氏

- ・「海」を中心に、アクティブな活動にチャレンジさせられるようなプログラムを準備した。
- ・9日間の指導を一貫したものとするため、活動のテーマを「自然のまなび人」と題して、海のダイナミックさ・すばらしさを十分に感じられるようにプログラムを構成した。

◆運営のポイント

- ・終日参加できるボランティアスタッフが4名いたので、班付きリーダー各1名および全体指揮リーダー1名で、システムを組み運営した。途中から参加するリーダーについては全体運営のサポートに回り、班付きリーダーを援助した。
- ・子どもたち同士による人間関係の成長を促すため、課題解決等じっくり取り組ませること

を心がけ、班での話し合いや打ち合わせの時間を十分にとりながら進行していった。

◆安全管理のポイント

- ・海の活動では、命に関わる事故・けがが十分考えられるため、経験を十分に積んでいる専門家に指導・助言いただき、的確な状況判断と参加者の安全管理につとめた。
- ・参加者の健康状況を常に把握し、負担にならぬよう随時細かな変更をしながら実施した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	80%	10%	10%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	60%	35%	5%	0%
この事業の運営はどうでしたか	55%	45%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・友達はやっぱいい。協力は大事。
- ・全く知らない人でも、話し合うと仲良くなること。
- ・今はあまり分からないけど、自分の中で何かが変わったような気がします。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・コミュニケーション能力の弱さがある（自分も認識している子も含む）参加者もいたが衝突や話し合いを繰り返しながらも、仲間としての協調性、自己開示ができるようになった。
- ・時間に余裕をもって、自然の中で生活し、1つ1つの活動をやりきり、自然への探求興味関心を積み上げることができた。
- ・シーカヤックを含めた「無人浜生活」では、海からのめぐみや海をわたることの自己肯定感を得ることができ、自然とともに生活してきた状況を改めて感じる事ができ、自然のすごさを十分に体感することができた。

(2) 課題

- ・ボランティアリーダー・スタッフとの綿密な打合せをもとに、活動をスムーズに行い、全体の指示システムのシステムがうまく機能できるように計画を練る必要がある。
- ・物品の片づけを本年度も参加者に活動の一部として割り振ったため、職員による負担を軽減することができ有効であった。ただ、準備について職員の負担は致し方なく、1ヶ月前からの余裕を持って臨みたい。また、阿納現地での作業については、担当以外の協力は不可欠で、事前に綿密な計画が必要である。

5. 活動の様子



【目標決め】



【テント設置練習】



【野外炊事練習】



【スノーケリング】



【赤石の浜でのジャンピング】



【シーカヤックで無人浜へ】



【無人浜生活①】



【無人浜生活②】



【無人浜生活③】



【歌碑へハイキング】



【若狭クルージング】



【キャンプファイアー】



【卒業証書授与・終わり式】